

平成23年度 南魚沼都市家庭科部会の取組

1 研究主題 「実践的・体験的な授業づくりに向けての学習過程の工夫」

2 研究推進の概要

(1) 家庭科部会 5月6日(金) <研究組織、研究主題の決定及び事業計画の立案>

新学習指導要領の趣旨を生かした実践に各自が取り組むよう、上記の研究主題を設定した。特に近年、生活経験の乏しい子どもたちが増えている現状の中で、より具体的な実践や体験による知識や技能の定着が求められている。そこで、実践的・体験的な活動を取り入れた授業づくりに向けて研究を深めたいと考えた。

(2) 研修会① 8月19日(金) 9:00~10:30 <教育課程研究集会>

○ 伝達講習 小学校と中学校で別会場で実施

- ・ 家庭科の目標等の確認 「生きる力、そのものを育てる」
- ・ 評価の観点 変更なし
- ・ 新しい評価の観点の趣旨 各観点の「その大切さに気付き」、「生活をよりよくするために」、「基本的」等の追加された部分を確認
- ・ 新しい学習評価のポイント 資料を基に確認
- ・ 各観点の評価における配慮事項 ”
- ・ 言語事項の充実 ”

(3) 研修会② 8月19日(金) 13:00~16:00 <実習体験、情報交換会>

前半は、郷土の食文化を知り、実習等に生かせるよう講師より指導を受けながら3~4人のグループごとにそば打ち(28そば)を行った。



後半は、持ち寄った年間指導計画を元に、それぞれの学校における新学習指導要領への対応や実習教材の選定、指導場面での問題点などについて情報交換を行った。小中の連携などについても話し合いたいところであったが、中学校教諭は2名しか参加することができなかつたため、全てのグループでは話し合えなかつた。しかし、それぞれの学校で行われている工夫や教材選定の考え方など、参考になる点が多い研修となった。



3 反省と今後の課題

新学習指導要領で重視している「実践的・体験的な学習」、「地域の食文化」の両方を生かすということから、今回の研修は有意義であった。体験学習を設定するには指導者にもそれなりの力量が必要である。指導者の実践力を養うという意味からも、実習を中心とした研修を今後も行っていけるとよいと考える。